

平成28年度 事業報告書

特別養護老人ホームさくら
ショートステイさくら
デイサービスセンターさくら
特定施設さくら
居宅介護支援事業所さくら

社会福祉法人横手福祉会

1. 法人事業概要

- (1) 法人名 社会福祉法人 横手福祉会
- (2) 所在地 秋田県横手市駅前町14番9号
- (3) 設立認可年月日 平成21年 8月 10日

(4) 法人事業

第1種社会福祉事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
地域密着型介護老人福祉施設	特別養護老人ホームさくら	29名	平成22年4月1日

第2種社会福祉事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
短期入所生活介護	ショートステイさくら	20名	平成22年4月1日
地域密着型通所介護	デイサービスセンターさくら	18名	平成22年4月1日

公益事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
地域密着型特定施設入居者生活介護	特定施設さくら	29名	平成25年4月1日
居宅介護支援事業	居宅介護支援事業所さくら		平成25年4月1日

その他の事業

なし

2. 職員状況

種別	平成28年3月31日現在 職員配置数					平成28年度中 退職者数	平成28年度中 入職者数
	特養	SS	DS	特定	居宅		
施設長	1						
事務長	1						
管理者				(1)	(1)		
事務職員	2			1			
生活相談員	(1)	1 (1)	2	(1)	—		
介護支援専門員	(1) 【1】	—	—	(1)	1 (1)		
介護職員	18 【1】	8 【1】	4 【1】	12 (1) 【2】	—	3	5 【2】
看護職員	2 (1)	1	【2】	1 (1)	—	1 【1】	1 【1】

機能訓練指導員	(1)	【1】	1	(1)	—		
管理栄養士	1				—		
栄養士	【1】						
調理員	4【2】				—	1	
介護補助員	【1】	—	—	—	—		
清掃員	【2】						
用務(営繕)	【1】						
合計	82名	*3名の産・育休者を除く				6名	9名

* () 書きは兼務

【 】 書きは非常勤職員

3. 職員会議、委員会等活動報告

(1) 全体会議

開催日 : 平成28年4月1日

出席者 : 理事長、施設長以下、法人全職員対象

内容 : 辞令交付、新入職員紹介、事業部実績ほか周知事項連絡

(2) 運営会議(リーダー会議)

開催日 : 毎月15日 11時から1時間

出席者 : 施設長、事務長、各事業所管理者、相談員、リーダー、栄養士、医務
介護支援専門員

内容 : 前月の各事業部の運営状況の報告や、課題に対し改善に向けた意見交換、
確認事項の周知徹底を図る。

(3) サービス向上委員会

毎月第3火曜日に開催。権利侵害防止に向けた取り組みとして28年度新たに設置。

利用者の権利擁護に努め、利用者からのお申し出(苦情)に適切かつ速やかに対応することを目的としている。目標を①お申し出やアンケート等、第3者の意見を反映し環境改善に努める。

②権利擁護、身体拘束、虐待防止に向けた取り組みを図る。とし、各事業部リーダーを中心に活動した。職員自身の身だしなみチェックを年2回行ったが、各々のチェックで済まされているだけであり他者評価もなく不足を感じた。整容検査のような点検があった方が良いのではないか、また服装についても自分が良かれと思っても、入居者や客観的にはどうなのか判断があれば良いと思うなどの反省があり、29年度は既存のチェックシートを「さくら」独自のものに変更し実施していきたい。

お申し出は特養7件、特定5件、ショートステイ8件、デイサービスで8件が挙がり、その内容のほとんどがサービスの質的問題が原因で、ほんのちょっとの気遣いがあれば防げたものであった。権利擁護、身体拘束、虐待防止についての研修会を開催したが、利用者や入居者の権利とは、を深く考える研修があっても良い、人権を難しく考えてしまうがもっと身近なものだと考えさせる内容

が必要だった、との声もあった。

サービス委員会と言うことで活動範囲も広くどこに焦点をあわせて行うか大変であり、29年度は、反省を活かし取り組んでいきたい。

(4) 研修委員会

毎月第4火曜日に開催。1.コンプライアンスの徹底と2.職員の資質向上に努めることを目的に、施設内研修会を定期的に開催した。

1については、身体拘束・高齢者虐待・プライバシー保護の3つに焦点を絞り、指針や規定の説明と、実際の現場での関わりを通じ職員に再確認してもらう。

2については、他の委員会との共同を図り年間研修を計画、実行した。研修会では職員が講師となり実施した以外に、初めて他施設から講師（歯科衛生士）を招き学んだ。実践につながる内容で好評であった。救命救急講習は継続実施とし28年度も31名が受講した。

自主的に研修に向かう仕掛けとして10月から「研修カード」を作成し活用した。29年度も有効に活用できるようにしていきたい。

今後の課題として、研修に参加できなかった職員へのフォローやと、職員階層別研修の導入を具体的に検討していきたいと考える。

(5) 事故防止委員会

毎月第4月曜日に開催。年に2回の勉強会では事例検討と疑似体験を行った。疑似体験では実際に体験してみてもわかること（利用者側の視点）が多かったとの意見が多く、その後の実践に役立つものであった。委員会の活動では、各事業部からあがった事故内容を精査し困難事例についての検討を行ったが、その後も同一内容の事故が繰り返し発生している。効果的な検討が十分にされ、それが活かされているのかの検証が不十分であった。「確認の徹底」「確実に言う」などの文言だけでは対策として不十分であり、より具体的な対策を検討することが必要なケースもあった。今後も「ここがわからない。こうしたらいいのではないか」といった各事業部からの声をひろい委員会で検討、フィードバックしながら再発防止につながる活動を行っていく。

*28年度事業部別 事故・ひやりハット件数

	特養	SS	DS	特定
ヒヤリハット件数	36件	61件	32件	46件
事故報告件数 (うち行政報告)	90件 (1件)	58件 (5件)	17件 (1件)	34件 (7件)

(6) 感染予防委員会

毎月第2木曜日に開催。目標を「施設内における感染予防と、感染症発症時に迅速かつ適切な対応ができる。」とし活動を行った。具体的な内容として、新人研修においてパンフレットを使用し、防護用具（マスク・手袋・プラスチックエプロン）の正しい着脱方法を学んでもらうことができた。今後は感染予防委員が中心となり、各事業所の定例会議の際に勉強会方式で、吐物処理の方法を定期的に確認するほか、吐物処理マニュアルを完成させたいと考える。

手洗いオーデットは前期・後期 2 回に分けて行った。手洗いオーデットを始めてからずっと【職員自身ではい・いいえをチェックし、感染委員が施設全体の集計をする。】方法で行ってきたが、施設全体の集計を出しても職員全員が正しい手洗いができるようになる糸口は見つからなかった。29 年度は、職員全員が正しい手洗いができるよう別の方法を検討していきたい。

(7) 行事委員会

毎月第 3 水曜日に開催。利用者の余暇活動の充実を図ることを目的とし、夏祭り・敬老会・文化祭のほか、新たに冬期間の活動として「さくらシアター」と称しデイルームでの映画上映を行った。駄菓子と甘酒を準備し、楽しめる内容の映画を上映し好評であった。定期的な開催につなげていきたい。夏祭りは開催時期の変更（暑さのため）を検討していく。

(8) 給食委員会

毎月第 3 月曜日に開催。28 年度の目標を「利用者の声をきく～あたたかみのある食事の提供～」 「行事食を装飾で盛り上げる～華やかな季節料理の提供～」とし取り組んだ。各部署に設置した「お食事感想ノート」に記入するのは給食委員が多く、他職員は少なく残念であった。行事食の装飾は年間を通して華やかであり、食後に居室に飾ったり自宅に持ち帰る利用者もいて大変好評であった。一方で約 90 人分の装飾には、取り組む時間の確保が大変であった。28 年度も栄養士や厨房職員が、事業部を周り利用者の声に耳を傾けてくれ良かった。

(9) 広報委員会

毎月第 4 水曜日に開催。5 月、7 月、11 月、3 月の年 4 回と発行回数は減らしたが、A4 サイズ 6 ページの冊子タイプにすることで、各事業部の日常生活の様子や行事等の写真を多用、また研修や勉強会等の報告も掲載し、見ごたえのあるものに出来たと感じている。また個人情報保護の観点から、写真を掲載する際はご本人やご家族に掲載について説明し同意を頂くことも徹底して行った。広報紙の役割である法人の取組の「見える化」という目標は達成できたと思う。

29 年度は、日頃からの写真の整理を行う、レイアウト、コメントをもう一工夫するなど、もっと見やすい紙面に作りが出来る様にしていきたい。また在宅介護や最新の介護についての情報発信を目的とした職員向けの広報紙の発行も検討したい。

(10) 安全委員会

「介護職員によるたん吸引等研修」を安全に行うために設置。28 年度は前期研修に特養から 1 名、後期には特定から 1 名の介護職員が参加。また特定施設を実地研修施設として県に登録、指導看護師も 3 名になり、安全かつスムーズに研修が行えるようになった。

(11) 入居判定委員会

公平かつ公正な特養・特定施設への入居となるよう、その判定を行うために不定期で開催。施設長・管理者・生活相談員・看護職員・介護職員・栄養士・介護支援専門員等で構成。特養では 9 名、特定では 6 名の方が入居された。

4. 職 員 研 修

(1) 施設内研修

日 時	研 修 内 容	講 師	開催場所	参加数
4月1日	コンプライアンスの徹底について	全体会議にて	会議室	57名
6月22日	排泄ケア（おむつの当て方） 新人職員向け	外部（メーカー）	会議室	4名
6月～12月	救命救急講習	横手市消防本部ほか	受講人数合計	31名
6月27日	電話対応について	研修委員会	会議室	8名
10月24日	事例検討会（内服について）	事故防止委員会	会議室	31名
11月10日	口腔ケアについて	外部講師（他施設歯 科衛生士）	デイルーム	29名
11月28日	冬の時期に多い感染症について	外部（横手保健所）	会議室	31名
12月3日	指導とは？ その方法について リーダー職員対象	外部講師	会議室	13名
12月20日	身体拘束・虐待・プライバシー保 護について	サービス向上委員会	デイルーム	27名
2月27日	疑似体験（介助場面を想定して）	事故防止委員会	デイルーム	34名

(2) 施設外研修等

開催日	研 修 内 容	職種・参加人数
5月30日	看護階層別研修（中堅）	看護職員 1名
5月9～23日 8月4～10日	介護職員等喀痰吸引等研修 前期 講義・実技	介護職員 1名 (特養)
6月2,3日	たん吸引等研修 指導者養成講習	看護職員 1名
6月10日～ 8月10日まで	認知症介護実践者研修（1回目）	介護職員 1名
6月22日	横手市福祉施設栄養士研修会	栄養士 1名
6月27,28日	福祉施設事業者等職員新任研修	介護職員 1名
7月5,6日	課題別研修Ⅰ 「利用者の尊厳を守るケア」	介護職員 1名
7月12,13日	安心・安全な介護技術教室・基礎編	介護職員 1名
7月14日	県労働局委託事業 雇用管理改善啓発セミナー	事務長 1名
7月14日	クレーム対応研修	生活相談員 1名
8月1日	社会福祉法人制度改革の施行に向けた説明会	施設長 1名
8月19日	県南地区給食施設関係者研修会	栄養士 1名
8月31日 9月1日	県老協 施設長研修会	施設長 1名
8月26日	県老協 在宅職員研修会	生活相談員 1名

9月6日～ 11月10日	認知症介護実践者研修（2回目）	介護職員	1名
9月16日	褥瘡予防とポジショニング	介護職員	2名
10月6日	雇用管理者講習会「安全衛生・健康管理」	事務長	1名
8月22日～ 9月5日 10月12～20日	介護職員等喀痰吸引等研修 後期 講義・実技	介護職員 (特定)	1名
10月22日	ショートステイフォーラム	生活相談員	1名
10月27,28日	個別ケアに関する職員研修	生活相談員	1名
11月10日	雇用管理者講習会「労働時間管理」	事務長	1名
11月11日	横手市ブロック老施協 職員研修会	介護職員他	10名
11月21日	社会福祉法人 制度改革セミナー	事務職員	1名
11月16,17日	指導者研修（専門性）	介護職員	1名
11月16日	個人情報保護説明会	事務職員	1名
11月22,23日	福祉保健施設・事務職員研修会	事務職員	1名
12月6日	横手市福祉施設栄養士協議会研修会	栄養士	1名
12月15日	社会福祉法人制度改革・担当者説明会	事務職員	1名
2月1日	社会福祉法人 決算説明会	事務職員	1名
2月10日	魅力ある職場作りセミナー	施設長	1名
2月21日	横手市 他職種連携研修会	介護職員 他	5名
3月1日	たん吸引研修 指導看護師研修打ち合わせ会	看護職員	2名
3月3日	対人援助スキルアップ研修	生活相談員	1名
3月8日	記録の理解と実践	介護職員	1名

5. 平成28年度 行事報告

開催日時	行 事 内 容
6月29日（水）	全事業部合同自主避難訓練
7月31日（日）	第7回 さくら夏祭り 駐車場にて開催
9月18日（日）	敬老会（午後開始。式典後余興。赤飯やお刺身などの行事食でお祝い）
11月7～13日	文化祭開催（利用者作品展示 最終日にはバザーを開催）
11月28日（月）	消防署立ち合い全事業部合同避難訓練（入居施設は夜間想定で行った）
12月24,25日	クリスマス会（行事食・各事業部で趣向を凝らし実施）
1月1～3日	正月行事
2月3日（火）	節分 豆まき（職員が鬼に扮し各事業部をまわる）
3月3日（火）	ひな祭り（行事食）

6. 平成 28 年度 ボランティア・実習生、視察受け入れ

湯沢翔北 専攻科	介護福祉科 介護実習 1,2 年生あわせ	3 名
横手支援学校	高等部 2 年生	2 名
介護労働安定センター	初任者研修・施設実習先として	3 名
よつば介護スクール	初任者研修・施設実習先として	3 名
認知症介護実践リーダー研修		4 名
夏祭り、敬老会ボランティア	高校生、専門学生等	計 25 名
インターンシップ・職場体験	県南地区高校生	計 3 名
社会福祉法人 由愛会	10/14.28 施設見学	計 13 名

7. 平成 28 年度 各事業部稼働率

事業部	定員	営業日数	年間平均稼働率	一日平均利用者数
特別養護老人ホーム	29 名	365 日	96.7%	28 人
ショートステイ	20 名	365 日	88.2%	17.6 人
デイサービス	18 名	311 日	77.7%	13.9 人
特定施設	29 名	365 日	96.2%	27.9 人
居宅介護支援事業所	登録平均件数 50.9 件		実績平均 47.5 件	

8. 平成 28 年度 まとめ

厳しい事業運営の中、法人理念の下での新たな目標「やさしさ、暮らしやすさ、あなたらしさ」を大切に、地域貢献を意識した施設運営、利用者等に対する権利侵害防止と職員の離職防止への取り組みに重点を置き取り組んだ。

権利侵害防止に向けた取り組みでは、施設内研修のほかお申し出後の速やかな確認と改善を行い権利侵害防止につながらないようかかわっている。また事業部毎に身体拘束と高齢者虐待防止法を学ぶ時間を設け、定期的に振り返りを行えるようにもしている。

離職防止の部分では、年 2 回の定期的な面談の際に、働き方についての再確認を行い、必要に応じて切り替えを行うなどした。新規採用者数も少なく人材確保がかなり厳しい現状であるが、これを重要課題とし、引き続き危機感を持ちながら取り組んでいきたい。余裕のない人員配置ではありますが、その中でもケアの工夫やコスト管理、削減に継続して努めてくれている職員の、モチベーションの維持向上につながる取り組みを、新たに考え実施していきたい。

その他、防災（減災）への対応として事業部毎の防災備品の点検や、年 2 回の消防避難訓練では夜間を想定しての訓練も行い危機管理に努めた。

毎月第一土曜日の午前中に開催する「集いの場（カフェ）」は、少しずつ周知されており、今後は内容を在宅介護者向けに、情報発信や憩いの場となるような仕掛けを行いながら続けていきたいと考える。地域貢献を意識し利用者、家族、地域、関係機関からの信頼が今以上になるような取り組みを考え、実行していきたい。

以下、28年度の各事業部の報告を致します。

特別養護老人ホームさくら

年間稼働率は96.7%、27年度と比べ0.8%減少した。退居者数は27年度と同様も、入院者のうち1名が毎月定期的な入院加療が必要であることが数字として表れた。6名の方が施設でお亡くなりになり、うち5名は看取り介護として関わらせていただいた。日頃のかかわりから自然な形で、最期を迎えられるよう、全職種が連携し支援させていただいたことができた。たくさんの学びから次にいい形でつなげていきたい。

重点目標の「ユニットケアの構築および推進」では、年間を通しての勉強会を28年度も継続開催し、職員の質の向上が入居者の生活の質の向上につながるよう努めた。ユニットごとに目標を立て、毎月のカンファレンス後にミーティングを開催、振り返りを行うことで意識して支援することもできている。取り組みの強化を図るため、1月からは「ユニットケア推進プロジェクト」と題し、若手職員を中心に勉強会を行い29年度につなげた。支援内容では本人、家族の意向を汲んだケアプランを軸とし、統一した支援が行えるようカンファレンスを中心に情報の共有に努めた。

28年度、新たに栄養マネジメント加算を算定し栄養ケア計画に従い入居者の栄養状態の把握・管理を行っている。

特別養護ホームさくら入居者情報

平成29年3月31日現在

(年齢構成)

年 齢	69歳以下	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上
男 性	0	0	6	1	0
女 性	0	3	10	9	0
合 計	0	3	16	10	0

男性平均年齢 86.4歳 女性平均年齢 87.5歳 総合平均 86.9歳

(介護度)

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男 性	0	0	1	3	3
女 性	0	1	2	5	14
合 計	0	1	3	8	17

男性平均介護度 4.2 女性平均介護度 4.4 総合平均介護度 4.4

- ・1年間で入院された方・・・4名
- ・1年間で退居された方・・・8名（うち6名が施設で死亡。1名は病院で死亡確認。
看取り介護実施は5名）

*特養での取り組み紹介

4/21～25－お花見ドライブ 5/8－母の日（押し寿司） 5/15～31の間で芝桜見学兼ドライブ
6/19－父の日のお祝い（記念撮影） 7/7－七夕レク 8/28－花火レク 12/24－クリスマス会
12/28－餅つき 2/3－節分行事 3/3－ひな祭り

ショートステイさくら

11月からの冬期間で稼働が90%を超えた以外は各月87%前後で経過。平均稼働率は27年度に比べ僅かに減少(0.5%)した。利用キャンセルに対し随時受け入れ調整を図っていたが、うまく補填が出来ず稼働率が下がってしまった。支援内容では家族だけではなく利用本人のニーズをもっとくみ取り、適したサービスで係わり満足感が得られるよう努めていくべきだと感じ課題が残った。(自宅での生活スタイルにより近づけた形での支援や利用中の楽しみ作りなど)

また、申し送り内容が伝わっておらず、把握できていない中で関わりを持ってしまった場面もあったことから、気付きを声に出し日誌やノートをうまく活用し、確実に申し送れるよう再度見直しをかけた。利用者らが安心して利用できることが、住み慣れた地域で暮らし続けることを支えることになる、ということを再確認し信頼関係のもと、稼働率の安定を図りたい。

デイサービスセンターさくら

28年度から地域密着型通所介護として定員18名でスタートした。上半期は平均稼働が81.2%で順調に伸びたが、下半期には、定期利用者の重度化によりショートステイへとサービス内容が移行し、また体調不良者や入院も多く73.9%と大きく稼働率が減少した。新規利用者の受け入れも積極的に行ったが目標の数字には追いついていない。稼働率の向上に向けた取り組みとして、お試し利用やスポット利用の紹介は効果があった。また機能訓練を売りにし、ほぼ毎月新規利用者の獲得につながった。28年度は更に強みを持たせ利用者満足につなげていく。重度利用者の受け入れでは、可能な限り対応できるよう努めているが、特浴希望が多く他事業部との調整や送迎の関係もあり希望に添えない事もあった。家族等と連携の部分では、送迎時や担当者会議等で聞かれた思いをかかわりの中でふれていくなどの配慮に努めた。また28年度も家族向けに「集いの会」を開催し、昼食の試食、施設見学や介護相談で日頃の悩みや思いを話し合う場を持つ事ができ好評であった。地域との関わりを大切に、さくらからできるサービス提供を行い、在宅支援につなげていきたい。

特定施設さくら

稼働率は97.3%。前年比マイナス1.5%。入院者も多く期間も長かったこと、退居後の調整がつかず速やかな入居へつながらなかったことが要因と考えられる。開所から4年目となり当時から入居者の状態が変化し、特定では初めて2名の方の看取り介護を行った。家族の想いを汲み取り、主治医との連携の下、その方の最期に寄り添った支援が出来たのではないかと振り返る。

重点目標として取り組んだ1.自分らしい生活ができ、安心できる「自分の居場所の提供」では、尊厳を大切にし個性に合った関わりを持つよう努めたが、時に言葉を誤解されてしまうこともあり難しいと考えさせられることも少なくなかった。2.人生の終末期を過ごす「家」としてのサービスの実施では、安心して暮らし続けられるよう、本人らと相談しながら環境整備を図ったほか、体調に変化が見られた際には速やかに主治医へ連絡、受診等の対処を行い健康管理に努めていた。

地域の中で暮らし続けることへの関わりが未だ十分ではなく、外部を巻き込んだ支援ができていないことが課題である。安全面も確保しながら気軽に立ち寄っていただける場所(施設)作りをどのように行っていくか、も併せて考えていきたい。

入居者情報
(年齢構成)

平成 29 年 3 月 31 日現在

年 齢	69 歳以下	70～79 歳	80～89 歳	90～99 歳	100 歳以上
男 性	1	0	2	3	0
女 性	1	1	14	7	0
合 計	2	1	16	10	0

男性平均年齢 87.2 歳 女性平均年齢 86.9 歳 総合平均 86.9 歳

(介護度)

介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
男 性	2	2	0	0	2
女 性	4	8	5	3	3
合 計	6	10	5	3	5

男性平均介護度 2.7 女性平均介護度 2.7 総合平均介護度 2.7

- ・1 年間で入院された方・・・8 名（心不全、全身状態悪化、尿路感染、腎結石、脳梗塞）
- ・1 年間で退居された方・・・6 名（病院にて死亡、施設にて看取り）

*特定施設での取り組み紹介

4/20－花見（梨木公園） 5/8－母の日（ちらし寿司作り） 5/12－お茶会
 5/29－ドライブ（農業科学館へ） 6/12－父の日（餃子作り） 6/30－笹巻作り
 7/7－七夕 9/4－ドライブ（羽後町道の駅へ） 10/12－クッキー作り 10/22－芋煮会
 11/11－パン作り 12/18 ドライブ（十文字道の駅へ） 12/24－クリスマス会
 12/27－餅つき 1/1.2－初詣、初売りへ 1/8－ドライブ（仙南道の駅へ）
 2/3－節分 3/3－ひな祭り

居宅介護支援事業所さくら

登録件数・実績と数字は伸びてはいるが、目標件数には僅かに届かず。利用者の状態や家族（介護者）の想いに寄り添い、地域包括支援センターほか他事業所との連携から、適切な支援ができたと感じている。また医療連携の部分では、退院後速やかに介護サービスを利用できるよう、専門的観点からの情報を得ると同時に連携を図った。今後もさくらにお願いして良かったと思っただけできるよう、適切かつ丁寧にかかわりをもっていきたい。

医 務

28 年度の目標は 1. 個々に応じた健康管理に努め、充実した日常生活が送れるよう努めます。
 2. 一人ひとりが安全な環境で、安心・安楽に過ごせるよう努めます。とし、具体的には以下のよう
 に取り組んだ。

① 日常の健康管理・安全に過ごせる環境整備に努める

個々を十分に把握し、それぞれの症状や訴えに対し、医師・相談員・介護職員ほか全職員と共
 にできる限り応じるよう努力した。転倒や転落、服薬の事故には十分注意し、起きた場合は早

急に対策を立て実行してきたが、時間が経つにつれ気の緩みからか同じミスを繰り返すことも多くあった。ミスや事故をゼロにはできないが、「決められたことを遂行する」ことで入居者の安全を確保できるよう努力する。安全衛生に関しては、研修会等の学びから嘔吐者が出た場合の適切かつ早急な処理ができていると感じた。今後も定期的に吐物処理の実践を行い、職員全員が技術を習得できる機会を作っていく。また消防署の救命講習以外にも、救命処置（AED や心臓マッサージ等）に関することも同様に行っていきたい。

② 疾病の早期発見・対応に努める

介護職員の協力のもと、いつもと違う様子を早期に見つけ医師に報告し早急に対応できた。また受診の際は相談員の協力もありスムーズに対応した。

③ 緩和ケア・看取り体制の充実を図る

27年度よりも、さくらの全職員で「最期を迎える」体制が整えられつつあると感じることができた。医師と家族が話し合う機会を設けたり、厨房と相談し本人の希望に沿った食事をお出しすることができた。当初「最期を迎える」時は正直、私たち職員に出来る事はほとんどないと感じていた。しかし声をかける、身体に触れるなど、職種を越えて人と人のふれあいが大切なこと、また看取り期に入らずとも、普段の生活が笑顔に溢れ、楽しいものであることが、さくらで最期を迎えるうえで大切なのではないかと感じた。ただ、“死”は突然であり、家族にとって受け入れ難いものであるのも事実である。今後、作成したパンフレットを活用し、家族を含めての精神的ケアができるように努力していきたい。

厨 房

1.健康管理と食中毒防止に努める。2.喜んでいただける食事を目標に、年間を通じて各自衛生管理をしっかりとして安全に調理できた。2については、給食委員と協力し、行事食では飾りやお品書きをつけて大変喜ばれている。希望献立ではユニットで天ぶらを揚げたり寿司を握ったりと、いつもと違う雰囲気味わっていただけたのでは、と思う。28年度より、ひやりはつとや事故報告書に代わる「厨房内報告書」を記入している。厨房職員全員が内容を確認し再発防止に努めていく。